

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400316		
法人名	株式会社 秀		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	函館市富岡1丁目54-17		
自己評価作成日	令和4年4月9日	評価結果市町村受理日	令和4年8月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0191400316-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和4年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者が自分らしく、そして互いに思いやり楽しく過ごせる様、外部との交流を深め、又季節感を味わえるよう行事等を組み込みながら支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、富岡地区の飲食店が多数並ぶ赤川通りに程近い住宅地に位置し、買い物、交通に至便な環境下に立地している。運営法人は、市内において複数の福祉サービス事業所を展開しており、統括職を中心に身体拘束・虐待防止に関する取り組みや制度改正、厚労省通知の情報共有等、グループ機能を活かした連携を図っている。介護設備、トイレ等は利便・効率性よく配置されており、利用者と共に製作した手作りの季節の飾り付け等で、家庭的な雰囲気作りに努めている。運営推進会議は、現在は書面開催としているが、家族、地域代表、地域包括支援センター等に日常の運営状況の詳細を書面で送付し、意見を聞き取ることで運営に反映するよう努めている。利用者家族からは、事業所のコロナ感染防止対策の徹底や、外出が難しい現状においての日々の外気浴、買い物、運動の機会作り等、心身の機能維持に関する工夫、理念の実践として、利用者本位に選択するケアを基本とした配慮ある支援が好評を得ている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します										
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと			
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない			
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように			
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度			
			3. たまにある				3. たまに			
			4. ほとんどない				4. ほとんどない			
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない			
			4. ほとんどいない				4. 全くいない			
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない			
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない			
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない			
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が							
			2. 利用者の2/3くらいが							
			3. 利用者の1/3くらいが							
			4. ほとんどいない							

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者に心寄り添い、その人らしさを大切にし、穏やかな生活を送れる様努めている。	理念を事業所の目に付く場に掲示することで、日常的に振り返り、理念が実践出来るよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナになり以前よりは減少しているが今後取り組んでいく様努めている。	通例では町内会、地域活動に積極的に参加している。自粛傾向の中、地域との交流、回覧板での事業所の近況の周知等、関係維持の方法について職員間で協議している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナになり以前よりは減少しているが今後取り組んでいく様努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナにより開催は不可能だが、書面開催により利用者やそれに関わる職員の対応の仕方などについて意見交換をしている。	現在は書面開催となっているが、通例では管理者を中心に家族、地域代表、包括で構成され、定例で開催している。運営状況や現状の問題点を挙げ、参会者から意見を聞き取り、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より担当者に連絡を取り、ケアサービスの変更についても伝えながら、常に協力関係を築くよう取り組んでいる。	市、地域包括支援センターから情報提供や指導・アドバイスを受けている。定例の運営状況報告の他、地域高齢者や事業所の状況について、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯のみ防犯上玄関の施錠。身体拘束については、職員全体が理解し常にケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、指針を基に定例で開催している。委員会では、現状の検証を行い、職員間で共有している。不適切なケアと思われる事は、相互に注意し合えるよう職場環境にも配慮しながら、拘束、虐待のない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講演会にリモートで参加したり、各職員が利用者の特徴を把握し、虐待防止・更衣に繋がらない様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等リモート参加し、報告会を聞き利用者が必要としているサービスを話し合い活用できる様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容に変更なく、ご家族の皆様にも理解を得ている。今後も変更時は都度説明を行いご家族の疑問点にも対応出来る様努めていく。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族訪問時や会議参加以外でも、ホーム見学者の意見を参考にして運営に反映される様努めている。	写真を添えたお便りや電話、利用者の日常の様子を伝えている。聞き取った意見・要望は運営推進会議の場で公表しながら、運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報告だけでなく実際に現場に入り現状を知ってもらい、職員からの提案など直に聞いてもらっている。	日々の業務や会議の場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、相談には代表、管理者が随時対応する等、働きやすい環境作りに配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金アップ・勤続手当の支給など毎年見直され、職員各自も向上心を持ってケアに取り組まれていく様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に対し何が足りないのか、職員同士でケアの向上に繋がる様、お互いの良いところを見習い力量を伸ばす様にしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設関係者との交流や情報をもとに、勉強会の開催などをしサービス向上させていく取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人よりの言葉に耳を傾け、どのように対処していくか話し合い、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの聞きとりをし、要望等に応える事が出来る様になれる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援の違いも含め、それぞれの思いを組み込み、日常生活に反映出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に暮らしを共にする者同士として、同じ目線で物を見れる様関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に本人の立場に置き替え物事に取り組み、一緒に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の家族への思い、馴染みの人への思いなどを聞きとり、関係が途切れない様努めている。	希望する場所への訪問は、職員の同行や家族の協力を得て、支援している。コロナ禍であるが、感染防止に留意しながら、柔軟な対応に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりの中で支え合えるよう、支援し孤立しない様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族等から相談がある場合も必要に応じ、支援できる体制が出来ている様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を送る中、一人一人の思いや、意向の把握に努め、出来る限り添えられる様検討している。	本人からどのように過ごしたいのか、具体的な要望・意向を聞き取る等、家族にも協力を得ながら、情報収集に努め、日々のケア、介護計画作成に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族よりの聞きとりで、自宅での過ごし方或いは、デイサービス・ショートステイなど普段の生活の様子・人間関係など把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日の過ごし方や人間関係で心身に及ぼす影響も確認し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がより良く生活する為、今のケアが正しいか関係者と話し合い、それをもとに介護計画を見直し作成している。	介護記録を基に職員間で現状のケアの検証を行い、本人、家族の希望を取り入れながら介護計画を作成している。状態の変化があれば、都度見直し、現状に則した計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行ったケアを記録に落とし、結果職員間で検討し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれず、その時の利用者の状況や家族の意向も踏まえながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し活用できる様、本人が自らの力を発揮し暮らしを楽しむ事が出来る様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のいる利用者は家族対応で受診されている。それ以外は、定期的な訪問診療・医療連携又は、臨時往診などで医療との信頼関係を気づき適切な医療を受けられるよう支援している。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援している。訪問診療による受診や、訪問看護による健康チェックがあり、個人記録を作成し、家族、職員間で共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の情報や状態変化などを正確に伝え相談。アドバイスを受けたり受診など出来る様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と日頃より連絡を取り合っていたり、入院の際にも現状報告、退院時には早く日常生活に戻る様、病院関係者との情報交換等行い良い関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時点で大まかな説明をし同意を得ている。重度化する前に今後のあり方について話し合いの場を設け、事業者で出来る事を伝えそれ以外については本人・家族の意思を尊重出来る様支援に取り組んでいる。	契約時に事業所の指針を説明し、同意を得ている。医療機関との連携体制があり、家族と共に終末期を支えるために話し合いを重ねている。利用者の状況に合わせた職員間の話し合いも、適時行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル・連絡網の作成など、職員は日頃より発生時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回入居者も参加し行っている。地震等による停電に備え、非常用ランプなども用意している。近隣の住民の方にも周知した抱き協力体制を築いている。	年2回の火災・自然災害を想定した利用者参加での避難訓練を実施している。地域住民には避難後の見守り等、役割もお願いしている。	地震等、自然災害を想定した避難訓練の充実を検討している。進展に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者の人格を尊重し、その人に合った言葉かけで対応している。	接遇が介護の基本であることを理解し、トイレ誘導や入浴時の声掛けを丁寧に行う等、尊厳を損なう事のないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望に添えるよう、ていく、自己決定出来る様な言葉かけをしていく		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者が出来る事を好きな時に行い、天気の良い日は散歩したり、その日を楽しみながら過ごせる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の手伝いや気にいられている衣類着用で迷われている時も、相談しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が主に楽しみとなっている。好むものも共通されている。定期的に提供出来る様にしその人に合った形状にしたり、食事を楽しむ事が出来る様努めている。	献立は、季節感を大切にした利用者の希望を取り入れたものとなっている。好みの食事を個々の食べやすい形状で提供し、楽しみある時としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量が一日を通じ利用者の負担にならない様調整し、一人ひとりの嚥下状態を確認してトロミ対応や刻み食対応などで支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就床時以外で、毎食後口腔ケアの声掛け・介助などで行っている。自立されている方は、見守りで行われている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜問わず、時間を見てトイレ誘導をし失禁等の確認をしている。トイレでの排泄が出来る様自立に向けた支援を行っている。	排泄はトイレで行うことを基本とし、チェック表を用いながら、誘導も時間と仕草を読み取って行っている。使用する衛生用品は、体型に合ったものを使用するよう、定期的に見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	過食・運動不足の解消、消化を助ける食物を多く摂取出来る様、メニューなどにも気を配り予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を好む人もいれば、入るのをためらう人も中、入浴する事によって気分転換も出来、結果入浴することを楽しみに繋がる様支援している。	毎日お湯はりを行い、無理強いすることなく、個々の希望、状態に合った入浴をとるよう心掛けている。拒否の強い利用者には、時間や担当者に変化をつける等、声掛けに工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢も考慮し、昼食後に休息を摂って頂いている。夜間も安心して、良眠出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用されている薬についての目的や副作用等は理解しており、状態変化により医療とも連携を取り都度対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前得意としていた事の再現や、自分で生かしていた役割を楽しみに変えたり、新しい事への試みなど出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は戸外に出かけたりする様努めている。散歩以外でも、希望によっては、スーパー等にも買い物に行かれる様になり、今後も周りの協力も得て、出かける回数が増える様支援している。	全員での外出行事は中止しているが、個別に声掛けし、買い物や散歩を行っている。室内でも運動の機会を取り入れ、気分転換や心身の機能維持に努めており、コロナ禍での制限が最小限となるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族が管理され、利用者はお金を持つ事の大切さを理解されている。必要な物は買物代行をしたり、外出時には職員が付き添い支払い等出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や葉書などのやり取りは自由で、返信時等出来る事は書いてもらい、代筆なども行い支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を見て感じ取れるような展示物を掲示したり、利用者の意見も取り入れたり快適に過ごせる様工夫をしている。	陽当たりの良いリビングを中心に、和める雰囲気づくりに留意して、寛げる備品の配置や季節に合わせた飾り付けをしている。また、温・湿度の管理や換気等、健快適さに配慮した空間作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安全面に気を付け、いつでも自由に過ごせる様工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊まりの部屋には家族写真や思い出の品などを置き、使い慣れたものは自分で手に取る事が出来、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は自宅のように落ち着つけるよう、家族の協力を得ながら、使い慣れた家具や思い出の品、家族写真等で飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部において、各入口に何をする所か絵や文字で掲示。利用者のできることは見守りしながら継続できる様努め、わかることからできることへそれをどう自立に向けていくか工夫をしている。		